2026_1029「北極圏の役者、空に勢ぞろい！」日々の理科 4463 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

スウェーデン北部、北極圏の小さな村ポルユスに設置した自動撮影カメラが、すばらしい一瞬をとらえました。月明かりに照らされた湖と、その上空に広がる淡い緑色のオーロラです。オーロラというと、漆黒の夜空に鮮やかに輝く姿を思い浮かべますが、月夜のオーロラには、また違った美しさがあります。薄いベールを何枚も重ねたような透明感があり、まるで手を伸ばせば届きそうなほど、身近に感じられます。

この夜は月が明るく、地面や線路、湖畔の木道まで、柔らかな月光に照らされています。地上には建物の影がくっきりと落ち、湖面にも対岸の明かりが映っています。空には薄い雲が流れ、その向こうに無数の星が輝いています。月明かりは暗いオーロラを見えにくくすることもありますが、この写真では、月光とオーロラの光が見事に調和し、幻想的な風景をつくり出しています。

オーロラの右側には、こと座の星々と、その主星であるベガが輝いています。ベガは日本では夏の大三角を形づくる「織姫星」として知られていますが、北極圏のポルユスでは、一年中地平線の下に沈まない周極星です。日本では夏の星として親しまれるベガが、ここでは秋から冬の夜空にも姿を見せるのです。

月明かり、満天の星、流れる雲、静かな湖、そして天空に広がるオーロラ。北極圏ならではの役者たちが勢ぞろいした、まさに奇跡のような一瞬です。人の目が届かない深夜にも、カメラは黙々と撮影を続け、こんな美しい光景を私たちに届けてくれるのです。

（2026 年 10 月下旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔観測）

